

関東及び近畿地区における病院図書室

～病院図書室の展望～

小林 道子*

昭和28年に施行された「医療法」の第22条で20床以上の総合病院に図書室の設置を義務づけている。しかしながら病院図書室設置のための、人材、図書室の広さ、蔵書構成や蔵書数、図書室の管理・運営などの基本的なことについては触れられていない。昭和53年の統計によると、わが国には約8,500の病院があり、その中の約100は医科大学に附属している。医科大学に附属しない約8,400の病院中、日本医学図書館協会（JMLA）に加盟している病院図書室は僅か4館である。

昭和49年11月に近畿地区に近畿病院図書室協議会（近病協）、昭和51年3月には関東地区に病院図書室研究会（病図研）、という2つの組織が誕生し、活動を始めた。約8,400あるはずの病院図書室中、JMLA、病図研、近病協に加盟している病院図書室は極く僅かである。またJMLAに加盟している4館を除いては、病図研、近病協に関連する病院図書室の年次統計的な資料がない。そこで両組織に加盟している病院図書室を対象に2度のアンケート調査を行った。第1回目は病図研加盟館を対象に行い、その調査結果から病院図書室と医学・医療情報システムについて、1981年6月の第81回米国医学図書館年次総会（MLA Annual Meeting）で発表した。その後、近病協加盟館を対象に病図研で使ったと同じ内容で第2回目の調査を行った。ここでは、両アンケートの調査結果を総括的に

報告し、その資料を踏まえて日本における病院図書室の将来像を述べる。

I 調査と方法

調査対象は病図研と近病協。

調査方法は病図研の場合、個人会員制であることを考慮して昭和54年現在64名の会員から先ず、JMLA加盟館でない病院図書室を選んだ。次に各機関から1名を無作為に選んだ、55機関の図書室へ昭和55年11月に調査用紙を郵送した。近病協は団体会員制で昭和56年現在54機関を代表する図書室で構成されている。全会員に病図研で使用したと同一内容の調査用紙を昭和56年8月に郵送した。記入データは昭和54年度（昭和54年4月1日から昭和55年3月31日）のものとした。調査項目は次の9点である。1）病院の設置主体と図書室の面積、2）図書室の機器と備品、3）司書・図書室の職員、4）蔵書、5）図書室の経費、6）図書室の奉仕対象、7）図書室の出版物、8）参考業務、9）クリニカル・ライブラリアン・サービス。

II 調査結果

1 回収率

1回収率は病図研69%、近病協72%であった。[表1]。

2 病院の設置主体と図書室の面積

厚生省統計情報部「医療施設調査」による

* 東邦大学医学部付属大橋病院図書室

表-1 アンケート回収状況

対象	発送数	回収	有効数	回収数から除外した機関の内訳
病院図書研究会 (病図研)	56	38 (教育指定病院 20)	35	○研究所 — 1 ○該当期間には図書室未設置 — 2
近畿病院図書室協議会 (近病協)	54	39 (教育指定病院 14)	28	○保健衛生専門学校 — 3 ○「病院図書研究会」にも加盟している図書室 — 2 ○該当期間に図書室未設置 — 5 ○図書室の設備・要員未設置 — 1

と病院は9種類の設置主体によって分類されている。¹⁾ この分類に従って病図研と近病協の各病院を分類すると両組織とも国及び都道府県・市町村立病院が多く、病図研では22館(62.9%)、近病協では14館(50%)がこの区分に入る。[表2]

図書室が独立しているか、あるいは病歴室や医局と併設しているかが病院内で図書室の果たす役割を知る1方法である。病図研によると28.8%の図書室は併設である。²⁾ そこで、どのような形態の図書室でもかまわないから図書室として使用している専有面積を答えてもらった。50~100m²の図書室が一番多く、病図研では13館(38%)、近病協では12館(48%)

である。最高と最小面積は病図研がそれぞれ35m²と687m²、近病協が13m²と562m²である。

3 図書室の機器と備品

各図書室が所持している機器の中で比較的所持館の多いものは欧文タイプライターと複写機である[表3]。メモリー付き欧文タイプライターが1館に、欧文ワードプロセッサー付きタイプライターが1館にある。

4 司書・図書室の職員

病図研と近病協における専任司書数は、前者が35館中33人、後者は28館中12人である。非常勤または院長秘書・病院事務職員と

表-2 病院の設置主体

設置主体		病図研 (有効数=35)	近病協 (有効数=28)
1	国	5(3)	3(3)
2	都道府県・市町村	17(10)	11(5)
3	その他の公的医療機関	4(1)	1(0)
4	社会保険関係団体	1(1)	3(2)
5	公益法人	0(0)	2(1)
6	医療法人	1(1)	5(1)
7	学校法人・その他の法人	5(3)	1(1)
8	会社	2(1)	1(1)
9	個人	0(0)	1(0)
合計		35(20)	28(14)

の兼務者も含め図書室の仕事に従事するところの全職員は病図研が45人(1館あたり1.29人)、近病協は33人(1館あたり1.18人)である。

専任・非専任司書の医学図書館経験年数は両組織とも約50%が5年未満である[表4]。

5 蔵書

JMLA加盟統計の蔵書数と比較してみると図書及び製本雑誌の合計は、病図研がJMLAの僅か3.8%、近病協が2.2%にすぎない(表5~7)。JMLAの現行雑誌登録数を100%とすると、病図研3.5%、近病協1.7%になる。

視聴覚資料は病図研で9館(25.7%)、近病

表-3 図書室の機器と備品

機器・備品	病図研 (有効数35)	近病協 (有効数28)
コンピューター端末機	6	2
複写機(図書室として設置しているところ)	24	16
スライド作製機	5	6
欧タイプライター	30	23
メモリー付英タイプライター又は、 ワードプロセッサ-付英文タイプライター	4	0
和タイプライター	8	4
V T R	6	2

表-4 専任・非専任司書の医学図書館経験年数

年数	年数			合計
	1-5	6-10	11以上	
病図研 (有効数 34)	22	14	7	43
近病協 (有効数 22)	7	6	1	14
JMLA (有効数 96 非専任を含まず)	231	189	250	670

協で4館(14.3%)の図書室が所蔵しているだけである。

6 図書室の経費

病図研における資料購入は282万円から、2,748万円までに渡っており、13館(38%)が300万円から600万円までに集中している。一方近病協では100万円から1,040万円までで、7館(25%)が400万円から600万円までに集中している。図書購入費は病院の規模(特に病床数、医師数、図書室の利用者数)、病院の設置主体や教育指定病院に係りなかった(表8~10)。例えば、病図研では301~400床を持つ教育指定病院は4館(20%)で、資

表-5 蔵書—現行所蔵雑誌

機関	所蔵	洋書	和書	合計
病図研 (35機関)		4,280	3,878	8,158
近病協 (24機関)		1,684	1,859	3,543
JMLA (96機関)		116,439	93,754	210,193

表-6 蔵書—単行書

機関	所蔵	洋書	和書	合計
病図研 (35機関)		54,063	77,714	131,777
近病協 (25機関)		31,287	70,334	101,621
JMLA (96機関)		2,247,241	2,855,120	5,102,361

表-7 蔵書—雑誌

機関	所蔵	洋書	和書	合計
病図研 (34機関)		120,641	76,104	196,745
近病協 (19機関)		43,653	48,835	92,488
JMLA (96機関)		2,257,809	1,272,565	3,530,374

資料入費は300万円から1,900万円未満である。同様に61~70人の医師を持つ教育指定病院は4館(20%)で資料購入費は200万円から700万円未満であるのに対して、非教育指定病院では300万円から1,500万円となっている。

7 図書室の奉仕対象

JMLA 加盟館では加盟館以外の利用者(外部者)の利用を制限している館が多い。しかし病院図書室は職員へのサービスだけでなく地域開業医やパラメディカル関係者へのサービスも行い易い環境にあると考え設問した。結果は病図研では35館中1館が図書室の親機

表-9 医師数と資料購入費

病図研=33機関
 近病協=17機関
 ()=教育指定病院

医師数	金額	百万円																	合計	
		1~	2~	3~	4~	5~	6~	7~	8~	9~	10~	11~12	13~	14~15	18~	19~	20~21	27~28		
11~20	病図研		1(0)																	1(0)
	近病協																			0(0)
21~30	病図研				1(0)															1(0)
	近病協	1(0)					1(0)													2(0)
31~40	病図研																			0(0)
	近病協		1(1)			1(0)														2(1)
41~50	病図研			2(1)	1(1)															3(2)
	近病協				1(0)															1(0)
51~60	病図研				1(1)	0(1)				0(1)										1(3)
	近病協					1(0)	0(1)													1(1)
61~70	病図研		0(1)	1(1)	1(0)	1(0)	0(2)								1(0)					4(4)
	近病協				0(1)															0(1)
71~80	病図研						0(1)	0(1)		0(1)									1(0)	1(3)
	近病協				0(1)			0(1)	0(1)		0(1)									0(4)
81~90	病図研				0(1)															0(1)
	近病協		0(1)	0(1)																0(2)
91~100	病図研			1(0)						0(1)									0(1)	1(3)
	近病協																			0(0)
101~110	病図研						0(1)													0(1)
	近病協					0(1)														0(1)
111~120	病図研																			0(0)
	近病協					1(0)														1(0)
121~130	病図研						0(1)													0(1)
	近病協																			0(0)
131~140	病図研																			0(0)
	近病協																			0(0)
141~150	病図研						1(0)													0(0)
	近病協																		0(1)	1(1)
161~170	病図研																			0(1)
	近病協																			0(0)
231~240	病図研																			0(0)
	近病協						0(1)													0(1)
合計	病図研	0(0)	1(1)	4(2)	4(3)	1(1)	1(5)	0(1)	0(1)	0(2)	0(0)	0(1)	0(0)	1(0)	0(1)	1(0)	0(1)	0(1)	0(1)	13(20)
	近病協	1(0)	1(2)	0(1)	1(2)	3(1)	1(2)	0(1)	0(1)	0(0)	0(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	7(11)

表-10 利用者数と資料購入費

近病協=18機関
()=教育指定病院

円

利用者	金額	百万円																合計
		1~	2~	3~	4~	5~	6~	7~	8~	9~	10~	11~12	14~15	18~	19~20	27~28		
201 ~ 300	病図研																0(0)	
	近病協	1(0)	1(1)														2(1)	
301 ~ 400	病図研		0(1)	2(1)	3(0)								1(0)				6(2)	
	近病協				1(0)												1(0)	
401 ~ 500	病図研		1(0)		0(1)												1(1)	
	近病協		0(1)		0(1)	1(0)	1(1)										2(3)	
501 ~ 600	病図研			1(0)		0(1)				0(1)							1(2)	
	近病協				0(1)	1(1)											1(2)	
601 ~ 700	病図研				1(0)	1(0)	0(1)	0(1)		0(1)						1(0)	3(3)	
	近病協			0(1)			0(1)	0(1)									0(3)	
701 ~ 800	病図研				0(1)		0(1)								0(1)		0(3)	
	近病協								0(1)								0(1)	
801 ~ 900	病図研			1(0)			1(0)		0(1)								2(1)	
	近病協		0(1)														0(1)	
901 ~ 1000	病図研				0(1)												0(1)	
	近病協						1(0)										1(0)	
1001 ~ 1100	病図研											0(1)					0(1)	
	近病協																0(0)	
1101 ~ 1200	病図研						0(1)									0(1)	0(1)	
	近病協																0(0)	
1201 ~ 1300	病図研						0(1)										0(1)	
	近病協																0(0)	
1801 ~ 1900	病図研															0(1)	0(1)	
	近病協																0(0)	
合計	病図研	0(0)	1(1)	4(1)	4(2)	1(1)	1(4)	0(1)	0(1)	0(2)	0(0)	0(1)	1(0)	0(1)	1(2)	0(1)	13(19)	
	近病協	1(0)	1(3)	0(1)	1(2)	3(1)	1(2)	0(1)	0(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	7(11)	

関である病院・研究所と同テーマを研究している外部の研究者や学生の利用を許可している。近病協では、25館中2館が地域医療関係者に図書室を開放している。患者専用図書室が病院図書室と別組織で構成されていると報告されたところが近病協に1館ある。

8 図書室の出版物 —雑誌リスト—

病院図書室が収集する頻度の高い雑誌は何か、JMLA加盟館で所蔵していない雑誌で病院図書室が所蔵しているものはどの位あるのかを知るために、図書室発行出版物の記入に併せて雑誌リストの送付を依頼した。残念なことに現行雑誌登録リストまたは雑誌所蔵リストを作成している図書室は少なく、前述の2点について分析を行うことが出来なかった。

9 参考業務

参考業務の中で特に文献検索サービスを行っている館は病図研が21館（62.9%）、近病協は12館（48%）である。コンピューターによる文献検索サービスについては病図研が14館（40%）、近病協は7館（12%）である。

相互貸借による文献複写サービスは国内での依頼件数と受付件数の合計で病図研——8,775件、近病協——6,122件である。国外依頼は病図研——59件、近病協——85件である。依頼先はNLM（米国National Library of Medicine）1件、ニューヨークの聖ルカ国際病院へ1件、残りは全部BLLD（英国British Library Lending Division）である。BLLDへ申し込むには東京のブリティッシュ・カウンシルからクーポン券を購入しておけば誰でも文献依頼が出来る。一方NLMへはJMLAが日本からの依頼窓口になっているためJMLA会員でないと利用できないことから推察して、調査結果による1館は他館経由で依頼したと推測される。

10 クリニカル・ライブラリアン・サービス

クリニカル・ライブラリアン・サービスを提供している図書室は病図研に1館だけあった。

III 考 察

今回の調査結果によると400万円台の資料購入費の図書室が1番多かった。医学書の平均単価は和書が約9,600円、洋書が約10,300円である。学会誌でないところの和雑誌平均単価が約18,000円、洋雑誌は約42,300円であることを考えると、1病院図書室が僅かな購入費増額を得ても利用者に十分な情報を提供できる状態でないことは明瞭である。

（表11）。^{註1}そこで病院図書室に望まれることは「組織化」である。個々の図書室を取り巻くところの病院外における組織化と、病院内における図書室の位置づけなどの院内組織化の2面が考えられる。

表-11 図書・雑誌平均単価

		単位 円	
		1978	1979
図 書	和	9,124	9,638
	洋	13,382	10,324
雑 誌	和	13,891	18,162
	洋	33,927	42,367

1) 全国組織

日本の医療体制の底辺となる病院図書室は、医科大学図書館とは異り、研究よりもむしろ実地の診療や、診療のための研究を目的とする医療従事者をその利用対象としている。そのために病院図書室に望まれることはその病院の職員が求めるニーズに応えられる体制である。今回の調査結果によると病院長や医局の蔵書から発展して漸く図書室という名称を与えられたような形態の図書室もあった。このような蔵書数も職員数も弱体である病院図

書室が十分な医療サービスを行うためには、「相互協力」のためのネットワーク形成が必要である。換言すれば、漸く歩きはじめて病院図書室を育てていくために、同質のサービスを行う関連領域図書館組織との協力体制が望まれる。

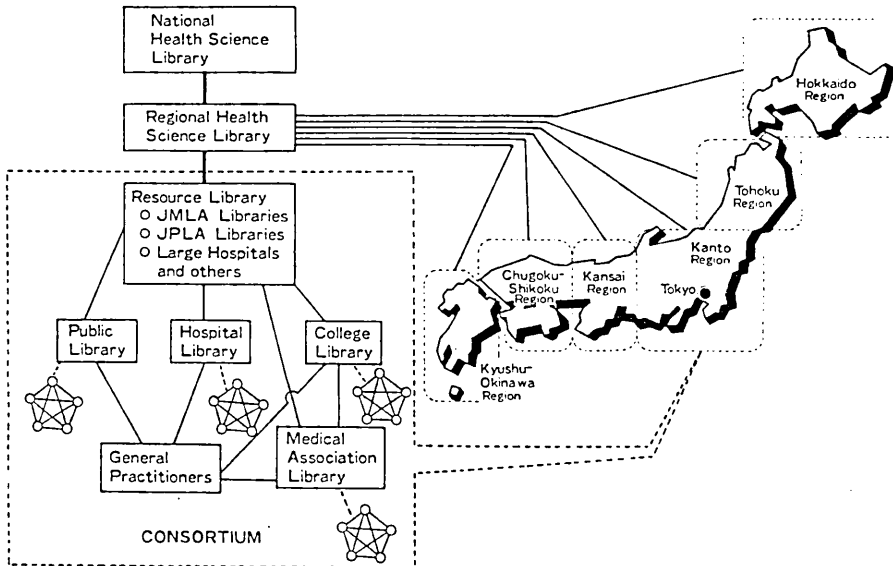
ところで、1964年の第35回日本医学図書館協会総会以来、JMLAでは「国立医学図書館」または「国立医学文献情報センター」設立の動きがあり、学術会議へ働きかけて来ている。しかしながら現在までのところ確たる構想は示されていない。仮りに中央集中化した「医学生物学情報センター」が設立されるならば、筆者の試案としては「Consortium」の概念を踏まえて設立されるのが望ましい。(図1)^{註2}ここでいう「Consortium」の概念とは、(1)文献提供サービス、(2)医学・生物学情報サービス、(3)図書館整理部門サービス、(4)司書生

涯教育及び図書館経営などのコンサルタント(5)図書館研究と開発を意味する。医療情報提供サービスを例にConsortiumのネットワーク構成について説明する。中央集中化されたネットワークは階層的である。底辺はローカル・ライブラリー群であり、ここに入るのは中小規模の病院図書室・大学図書館・公共図書館などである。ローカル・ライブラリー群の中で小規模なConsortiumを構成し、開業医や医療関係者にレファレンス・サービスや医療情報サービスを提供する。

次の階層はリソース・ライブラリー群である。ローカル・ライブラリー群が構成する、Consortium内で得られなかった利用者のニーズを得るために、ローカル・ライブラリーはリソース・ライブラリーの応援を仰ぐ。

ネットワークの次の階層は全国を6区に地理区分し、各地区に1館ずつ設置された地域

図-1 国立医学生物学情報センター(仮称) — Medical Information Network



図書館群である。地域図書館は各地域内の医科大学や医師会との連携のもとに、リソース・ライブラリーで処理できなかった情報の提供を行うなど、各地区内で Consortium を構成する。

「国立医学・生物学情報センター」が全国ネットワークの核となる。

1970年代に入って、病図研と近病協が組織されたことは喜ばしいことであるが、両者の間に Consortium で言うところの協力体制はない。また医学生物学関係では最大規模であり、全国ネットワークを持つ JMLA と病図研または近病協との間にも協力体制がない。18年間の歴史的な経緯から推察して国立医学生物学情報センターの設立は早急に実現化しないであろう。もしそうであるならば現存する病図研・近病協はじめ医学生物学関係の組織は JMLA ネットワークの下に組織編成されるよう要望することが望ましい。JMLA は核(センター館)を持たないので理想的な Consortium を構成するとは考えられない。しかし病院図書室やその他の医学生物学関係の図書館が参加して再編成されるネットワークが国立医学生物学情報センター設立へ発展する礎となることを期待するのは楽すぎるであろうか。

2) 病院内組織

図書室が病院組織図でどこに位置づけられているか——例えば病院長直属であるのか、事務部所属であるのか、それとも診療補助部所属であるのか——ということを明確にし、図書室の管理・運営体制を確立することが必要である。そのために病院図書室司書は病院内における図書室の重要性を病院関係者や職員に十分理解してもらうよう努力する。この努力が専任司書確保や資料費増額への足掛りとなる。アンケート調査中、参考業務に関する設問に「不明」または「0件」と答えた館の数館は、「文献検索サービス及び文献入

手サービスを製薬会社のプロパーが無料で利用者に提供している」と付記してあった。湊氏は情報(文献検索及び文献入手)入手方法では製薬会社のプロパーを利用する方が大学図書館利用よりも多いと報告している。³⁾ 利用者の図書室離れの理由は単に図書室の不完備だけではないかもしれないが、形態的に図書室を整備することより現在行うことの出来ない図書館情報サービス——クリニカル・ライブラリアンとか「LATCH」(Literature Attached to Chart) サービスなどの「Team Care」への参加——へと発展することが可能になる。更にこの種のサービスを行えるまでに発展した図書室は躊躇することなくサービスを試みる。同時にサービスのための司書養成に病院側の理解を深めてもらうように働きかける。

IV 結 び

病院図書室の現況を知るために病図研と近病協を対象にアンケート調査を行った。その資料を使い両組織を対比させながらデータ分析を行った。両組織に属さない、いや属せない弱小規模の図書室も含めた全国規模の医学・生物学情報センターが Consortium の概念のもとに設立されることが望ましく、そのためには JMLA が中心となって活動を遂行していくことが効果的であると考えた。

最後に病院内での図書室の位置づけを明確にし、図書館活動の場を固めた上で、次にクリニカル・ライブラリアンや「LATCH」サービスに代表される「Team Care」への参加まで図書室活動を発展させることを考えた。

<謝意>

アンケート調査に御協力下さった病院図書室研究会及び近畿病院図書室協議会の各会員

の方々に厚くお礼申し上げます。

論文作成にあたり御指導下さいました慶応義塾大学津田教授に謝意を表します。

2) 病院図書室研究会 東京, 神奈川における病院図書室の実態 医学図書館, 22(3); 159-166, 1975

< 引用文献 >

1) 厚生大臣官房統計情報部編 厚生統計要覧 昭和55年版 東京, 厚生統計協会, 1981 p 130

3) 湊泰子, 河口澄子 中国四国地方における病院図書室の実態 医学図書館, 28(3); 219-226, 1981

< 引用図・表 >

註1 東邦大学医学部図書館; 図書館年次報告 1979 (昭和54)年度 東京, 東邦大学医学部図書館, 1980 p 8 - 10

註2 Effectiveness of Japanese Hospital Libraries, June, 1981, Speech at 81st Annual Meeting, the U S Medical Library Association, Montreal, Canada

本稿は、日本医学図書館協会会誌「医学図書館」第29巻1号、46-55頁(1982)に掲載された論文です。著者小林道子氏および「医学図書館」編集委員会の御諒解を得て、本号に転載させていたゞきました。(編集子)



APPENDIX(A)

I. 病院の種類と図書室の面積

1) 病院の種類	設置主体	_____
	教育病院	はい いいえ
	病床数	_____
2) 図書室の面積	閲覧室	_____ m ²
	書庫	_____ m ²
	事務室	_____ m ²
	その他	_____ m ²
	合計	_____ m ²

II. 機 器

VTR、複写機、タイプライター、ファクシミリ、コンピューター端末機など全ての機器をお書き下さい。

名 称	機 (合)	名 称	機 (合)
1 _____	_____	2 _____	_____
3 _____	_____	4 _____	_____
5 _____	_____	6 _____	_____
7 _____	_____	8 _____	_____

III. 館 員

1) 常 動	非常動	
司 書 _____ 人	_____ 人	
司書補 _____ 人	_____ 人	
事務員 _____ 人	_____ 人	
合 計 _____ 人	_____ 人	
2) 学 歴	人 数	
高 卒 _____ 人	_____ 人	
短 大 卒 _____ 人	_____ 人	
大 卒 _____ 人	_____ 人	
大学院卒 _____ 人	_____ 人	
合 計 _____ 人	_____ 人	
3) 医学図書館経験年数	人 数	
1~5年 _____ 人	_____ 人	
6~10年 _____ 人	_____ 人	
11~15年 _____ 人	_____ 人	
16年以上 _____ 人	_____ 人	
合 計 _____ 人	_____ 人	

IV. 蔵 書

1) 図 書 (洋書) _____ 冊	
(和書) _____ 冊	
雑 誌 (洋書) _____ 冊	
(和書) _____ 冊	
合 計 _____ 冊	
2) 視聴覚資料 _____ 冊	
3) カレント誌 (受入中の雑誌)	
(洋書) _____ 誌	
(和書) _____ 誌	
合 計 _____ 誌	

V. 経 費

図 書 (洋書) _____ 円	
(和書) _____ 円	
雑 誌 (洋書) _____ 円	
(和書) _____ 円	
視聴覚資料 _____ 円	
合 計 _____ 円	

VI. 利 用

1) 奉仕対象者	
1. 職員のみを対象としている	はい いいえ
2. 患者も対象としている	はい いいえ
3. 地域住民も対象としている	はい いいえ
2) 奉仕対象者数	医 師 _____ 人
	看護婦 _____ 人
	職 員 _____ 人
	学 生 _____ 人
	その他 _____ 人
	合 計 _____ 人
3) 年間開館日数 _____ 日	
4) 開館時間	月~金 _____ AM ~ _____ PM
	土 _____ AM ~ _____ PM
	日・祝日 _____ AM ~ _____ PM
5) 年間利用者数 _____ 人	

VII. 出 版 物

図書室の出版物をお書き下さい。

1 _____
2 _____
3 _____

※ 雑誌受入リストがありましたら1部ご寄贈下さい。

VIII. レファレンスサービス

1) レファレンス件数	年 _____ 件
2) 文献検索	
マニュアル検索	年 _____ 件
コンピューター検索	年 _____ 件
内訳 {JOIS	年 _____ 件
その他	年 _____ 件
合 計	年 _____ 件
3) 相互貸借 (国内)	
依 頼	年 _____ 件
受 付	年 _____ 件
4) 相互貸借 (国外)	
依 頼 N L M	年 _____ 件
受 付 B L L D	年 _____ 件
Excerpta Medica	年 _____ 件
合 計	年 _____ 件
受 付	年 _____ 件

IX. Clinical librarianship について

現在行っています はい いいえ
 いいえ と答えられた方のみお答え下さい。
 研究者の行う症例検討会や抄読会に司書が出席したことがある
 はい いいえ
 症例検討会や抄読会に出席を希望した場合、研究者側で受入れてくれる可能性がある
 はい いいえ

調査内容は全て1979年度末(1980年3月31日現在)でご記入下さい。